



LIVE REPORT

8/25 thu. 倉敷市民会館

## ウカスカジー

最高の拍手、クラブが包む！  
笑顔で超ハッピーなライブ！

今年1月開催予定だった公演が延期となり、7か月後の開催となった本公演。万感の想いを持つ、興奮が伝わるような拍手で迎えられた中、歌う事の喜びをリズムに変えて響かせる『コエノチカラ』からスタート。再会を祝す『Anniversary』でコーラスアミーゴ（ウカスカジーファン）が手を大きく横に振り、会場中が温かな拍手に包まれ、笑顔が溢れる。この曲の「みんないい人ばかり」という歌詞は、このライブに関わる全ての方々に当てはまっていると思う。次の桜井和寿のMCで「イメージする事をまるで現実のように体感できるかどうかの実験です。目を瞑ってただ聴いてください」と話し、弾き語りした新曲の“雲ひとつない空の下、広い公園の芝生に座っている～もうマスクを付ける必要はない”という内容のフレーズ。そのイメージが続いていくような次の曲『サンシャインエブリデイ』は歌い出しの弾き語りと間奏のハーモニカが心地良く、超ハッピーな音楽空間に。『青春FOREVER』ではガクササイズと称し、GAKU-MCの振り付けの煽りに合わせて縦に横に、前のめりでポジティブなメッセージが客席に広がり、会場が温まった状態で、シティーポップの代表曲をカバーした『DOWN TOWN』へ。スクリーンに映し出されたオープンカーと共に真夏の海へ、街へ、ウカスカジー&バンドアミーゴと一緒に繰り出して行きたくなった。

ライブ中盤、お互いのソロコーナーへ。GAKU-

MCは「コロナで失ったもの、それは何だろう？」という問いかけを、アコギ+RAPのスタイルで、より重く心に響かせながら『それでも日々は続く』を披露。続いてはFM MIFAという架空のラジオ番組が始まり、ミュージシャン桜井和寿から『初めて音楽に出会った日』の投稿が寄せられ、少年の頃、夏休みの後半、旅先で家族と夕日を見ていたら、どこからか聴こえてきた“どんなに遠くても辿りついてみせる”というフレーズ。「どんな大変な時でも、心の中であの日の夕日を思い出す」というエピソードの後、披露されたカバー曲は浜田省吾の『家路』。SUNNYのピアノと桜井和寿にスポットライトが当たり、曲の中盤から後半、バンドアミーゴの演奏と共に赤く染まる照明も素晴らしい。少年の頃憧れていた浜田省吾に、一歩でも近づきたいと思う気持ちでエレキギターを弾き歌う姿は、大好きな音楽で音を鳴らすことへの純粋な気持ちが伝わってきた。きっと会場にいた全ての人が「初めてMr.Childrenの音楽と出会った日」の事も、思い出したのではないだろうか。

次の曲はダンスナンバー『HAPPY HOUR』。MIFA公式キャラクター、ミファンダ、ミソラ、レッシ（サッカーパンダ）が登場し、この日一番の運動量のあるダンスで全員が一緒に踊る。後半は『上を向いて歩こう』『時代』とほろ苦い大人の歌を届け、『春の歌』へ。出会いと別れのある春の切なさや希望が音楽という風に乗り胸に届いていく。桜井和寿が力を振り絞るような魂の込められた表情と声で

- SET LIST
- |                          |                |                        |
|--------------------------|----------------|------------------------|
| 01. コエノチカラ               | 09. 言葉         | ENCORE                 |
| 02. We are not afraid    | 10. 雪物語        | 01. 手を出さな!             |
| 03. Anniversary          | 11. それでも日々は続く  | 02. 勝利の笑みを君と           |
| 04. 新曲                   | 12. 家路         | ～日本サッカーのために～           |
| 05. サンシャインエブリデイ          | 13. HAPPY HOUR | 03. また会う日まで            |
| 06. 青春FOREVER            | 14. 上を向いて歩こう   | ENCORE 2               |
| 07. DOWN TOWN            | 15. 時代         | 01. Let's get together |
| 08. PLEASE SUMMER BREEZE | 16. 春の歌        | ～ウカスカクラスター～            |
|                          | 17. mi-chi     |                        |



歌い終えた後、大きなシャウトが会場中に轟く。感動が込み上げてくるような素敵な拍手が鳴り止まなかった。本編ラストは『ラララ♪』の部分をコーラスアミーゴがマスクの中、柔らかなハミングで包み、「HEY,HO」と横に手を振り揺れながら、未知なる明日へと生きる実感を持つ『mi-chi』で終了。

アンコール、代表曲『勝利の笑みを君と～日本サッカーのために～』は、サッカーと音楽を重ね、日常の壁を越え、勝利を掴むための爽快なチューン。拳を振り上げ、飛び跳ね、最高のヴォルテージに。『また会う日まで』では、GAKU-MCは涙を浮かべているようだった。ダブルアンコールの後、お互いを紹介する決まり言葉「世界に誇る日本の宝！ 桜井和寿！」「RAPで世界をプラスの方向に！ GAKU-MC！」と紹介し退場。コーラスアミーゴをチームメイトと呼び、笑顔とハッピーとポジティブなヴァイブスが広がったウカスカジーのライブ。何より2人のコンディションは絶好調、バンドアミーゴのグルーブも熟成され、圧巻のパフォーマンスだった。